

令和4年9月 20 日

### 政策調整会議付議依頼書

依頼者名 財務部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

#### 記

付議事項名	令和5年度予算編成方針について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	令和5年度予算編成にあたり、その骨子となる予算編成方針について、付議する。  ■効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第3条第2号に該当
説明者	新内財政課長 浅野参事 三宅予算担当長
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和4年度 第3回会議
付議事項	令和5年度予算編成方針について

★取組の目的

対象	職員
どのような状態を目指す	令和5年度予算編成にあたり、その骨子となる予算編成方針について、付議する。 ■効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第3条第2号に該当

★総合計画上の位置付け

202020201	基本目標	Ⅱ-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(2)持続可能な財政運営が行われている
	目指す成果	②計画的に財政運営が行われている
	行政の役割	ア 中長期の視野に立ち、効果的・効率的な財源配分を行う

★現状と課題

「岸和田市健全な財政運営に関する条例」に基づき、持続的かつ計画的な財政運営に資するため、毎年、財政計画を策定し、次年度の予算編成を行っている。
---

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源							
	その他							
事業費	計			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
			0	0	0	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性\*

人員増の必要性			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
有	無						

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R2年度	R3年度	R4年度	目標値				
					R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
①									
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。

## 令和4年度 第3回 政策決定会議 会議録

- 
- ◆開催日時：令和4年9月30日（金） 10：05～10：30
  - ◆開催場所：市長公室
  - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、戎井副市長、大下教育長
  - ◆説明者：寺本財務部長、新内財政課長、浅野参事、三宅予算担当長
- 

### ◆審議事項

令和5年度予算編成方針について・・・・・・・・・・・・・・・・・・財政課⇒承認

---

### ◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉骨太方針（経済財政運営と改革の基本方針2022）が閣議決定されたのは6月7日のことなので、その後の第2四半期分の動きをよく見ておくこと。急激な円安や物価高騰、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、新型コロナウイルス第8波の懸念など、事態は大きく動いている。ただし、一部の大企業・製造業の業績は非常に好調で、さらに今後、国内旅行やインバウンドが回復し、観光業、サービス業といった非製造業でも増益が予測されるため、国の税収は非常に良くなるという状況認識が必要。

特に、各省庁の令和5年度概算要求の総額は110兆円を超え、総務省の概算要求では、地方交付税総額は出口ベースで18兆円を超えており、来年度は交付税収入が多額になることが予想される。また、交付金の原資は我々が納めた所得税や消費税が含まれているため、各交付金の申請漏れがないよう緊張感を持って各省庁の概算要求や事業を注視しておくこと。また、大阪府でも税収は好調で、令和3年度は1,200億円の増加となり、財政調整基金も令和3年度には2,000億円を超えており、行革に取り組んだことにより平成19年以前と比べ、基金が100倍以上に回復した経緯がある。本市でも行革を行い、確実に基金に積んでいくことで今後の積極投資にもつなげていける。基金を積み上げながら、行革の果実を市民に還元できるよう事業に取り組んでもらいたい。

また、10月3日から臨時国会が始まり、ここでも大型補正が組まれる予定で、さらに1月にも補正予算が組まれる話が出てきており、臨時交付金も入ってくると予想される。本市では、これまで既に累計52億円の臨時交付金が入っているが、一方で返還金も2,400万円出している。市民が納めた大切な税金を市民の生活の向上に還元するため、返還金が出ないように、他府県や他市、さらには海外事例等の情報を収集して事業展開をすること。

しかしながら、一方では行革には厳しく取り組んでももらいたい。既存事業の終結・撤退ルールを作り、財務部から各部局に終結・撤退すべき事業の精査について強く指導

するように。令和7、8年度になると財政は急激に悪化していくこともありうる。いずれ必要となる市民病院の建替えについても、市民の生命・健康維持のための高度な医療サービスの提供、病院経営における収益確保のために不可欠な投資ということで、今から財源の議論を十分しておくように。

最後に、行財政再建プランの効果額が土地売却ばかりと喧伝されているが、これは大きな誤りであることをはっきり説明して欲しい。平成30年度～令和3年度の合計109億円の効果額のうち、土地売却の割合は40%で、残りの60%は各部局の涙ぐましい努力と市民の協力の結果である。それが根雪となって継続し、その結果、実質単年度収支がここまで黒字化してきたという重みを事あるごとに職員は認識し、市民等外部に発信してほしい。

- 〈戎井副市長〉方針1の「なお、財政的な負担に留意し、原則的に、当該事業に要する経費に充てる財源の確保に努めること」の意味するところは、各部局で財源を確保できなければ要求してはならないということか。
- 〈財政課長〉要求自体は各部局精査をしながら進めていく。この中でも将来的に歳入の増加が見込める事業は積極的に進めていくべきであると政策調整会議でもご意見をいただいた。そのことも踏まえ、現状財源が不足しても、将来的に歳入増加が見込める事業は一定時間をかけて進めていくべきだと考えている。ただ、国からの補助金等明らかに財源があるものは、確実に確保していくことを前提に事業を進めていただきたいと考えている。
- 〈戎井副市長〉スクラップアンドビルドについて、現状、財政課が各部局に指導しながら新規事業ができるように予算編成をしており、一律のシーリングは、各部局事情が違うため実施していないとのことだが、予算要求の時点では財源を確保できなかったとしても、国からの交付金があった際には事業化できることもあり得るので、各部局において、財政課と常に協議し、スクラップがなくても新規事業を毎年提案するというトレーニングができるような予算編成過程を創ってほしい。
- 〈教育長〉当面の財政状況が比較的好転しているという楽観視だけが蔓延するのは危険だが、令和4年度の財政計画の将来の収支見通しで今後厳しい局面を迎えるということも記載する一方で、将来に向け一定投資をしようという今回の方針は素晴らしい内容だと思っている。職員は発想を豊かにし、努力を惜しまないことを各部局にも求めるとともに、財政課もその視点で計数整理をされたい。
- 〈市長〉堤副市長の意見にあったように、この4年間の行財政の集中改革期間については、市議会でも何度も議論されており、土地の売り払い収入の金額が大きいため、それだけだと誤解されているところもある。行革はまだ十分でない部分もあるが、一から財源の使い方のチェックを行い、市民にも協力していただき、今後も続いていく効果を生んでいる。このことを改めて説明し、その上で、これからは、必要に応じて予算もつけていく局面に変わっているという説明がよい。方針にも「職員が一丸となって」という記載があるが、その精度を高めていくこと。既存事業をそのままにすると、新しい提案をする必要がなく、議論にもならないため硬直化につながる。職員一人一人が、時代に合った新たなことをし、そのために既存事業を精査していくという発想を持たないと市役所全体の血の巡りがよくなっていかない。「一丸と」の精度を高めるにはどうすればよいかを考え、常に意識してもらいたい。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。